

先生・お薦めの一冊

ピリケン打撃投手

『フルスウィング』須藤靖貴 著 (小学館文庫) より

英語科 廣瀬裕二 先生

玉村謙太郎は8年間所属していたプロ野球チームを26歳で解雇され、球界の盟主と呼ばれる別の人気チームから打撃投手を打診される。県立高校の野球部出身で甲子園出場経験は無く、県大会3回戦止まりだった謙太郎だが、140キロ台の剛球を投げ込む左腕投手で、自分を天才投手だと思っていた。「地味な努力」を嫌い、自分を追い込むことをしなかつた。そんな謙太郎に打撃投手を決心させたのは、時計職人である無口な父親が往時計を修理する後ろ姿と、父親の「プロ職人の手」であった。

花形選手時代以上に走り込み、体調管理に気を配り、妻の絵里子の食事・栄養面での協力を得て、謙太郎は打撃投手としてチームのために安定した「いい」球を投げ続けた。2年間、中学からの野球人生で一番打ち込み、自分なりに突き詰めて努力し、「自分」を殺すことで今まで見えなかったものが見えてきた。そんな謙太郎に、ある日突然「転機」と「奇跡」が訪れる。

須藤靖貴氏は、『俺はどしやぶり』や『押し出せ青春』、『どまんなか』など、様々なスポーツを題材にした作品を執筆しており、自分(＝廣瀬)の好きな作家の1人です。「人間の才能」や「本当の努力」とは？毎日の学習や進路実現、部活動や人間関係などで悩んでいる中央生がいたら、必読を薦めたい作品です。

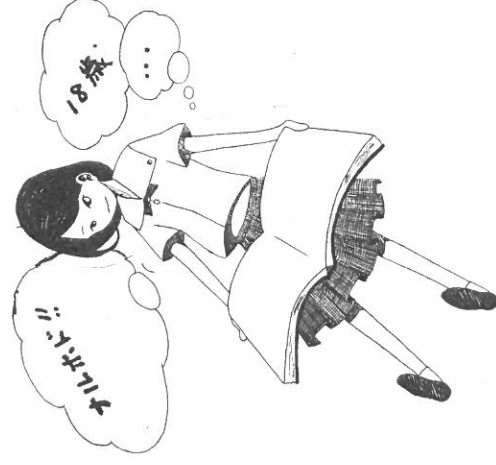
7、8年前の話ですが、『フルスウィング』というタイトルに惹かれて、書店を何軒も巡っても見つけることが出来ず、購入を諦めていました。前任校の英語科旅行で福岡県へ行き、たまたま時間つぶしで書店に入りました。文庫コーナーの片隅に『フルスウィング』(小学館文庫)を発見した時、まるで自分(＝廣瀬)を待っていてくれたかのように感じました。現在、ワンクリックやコンビニでも気軽に書籍を購入できる時代ですが、探し求めていた一冊を手にした感動は、筆舌に尽くしがたいものがありました。読書の秋、一人でも多くの中央生が、「本との出会い」を大切にしてくれればと思います。

18歳の本

- * 『18歳からの格差論 日本に本当に必要なもの』井手 英策 著 (東洋経済新報社)
- * 『18歳選挙権』で社会はどのように変わるか』林 大介 著 (集英社)
- * 『18歳らの選択 社会に出る前に考えておきたい20のこと』上木原 弘修 著 (フィルムアート社)
- * 『18歳選挙権に向けて主権者教育のすすめ 先生・生徒の疑問にすべてお答えします』藤井 剛 著 (清水書院)
- * 『18歳からの民主主義』岩波新書編集部 編 (岩波書店)
- * 『18歳選挙権で政治はどのように変わるか』飯田 泰士 著 (昭和堂)
- * 『18歳選挙権ガイドブック』川上 和久 著 (講談社)

今年から導入された18歳選挙権。実際に投票に行ったという3年生も多いことでしょう。今年は「18歳」をキーワードに、たくさんの方の関連書籍が出版されています。18歳限定ではなく、多くの人に「世の中のことをもっと知ってほしい」という意図から出版された書籍が多いようです。

18歳は大人なのか子供なのか・・・。皆さんはどう思いますか。選挙権を与えられたということは、立派な大人として見られているということでしょう。私たちに与えられた権利とは何か、私たちが果たすべき義務とは何か・・・考えてみませんか。



夏のチャレンジ!

*「第2回 高校生ビブリオバトル」平成28年7月16日(土) 場所：鹿児島市立図書館

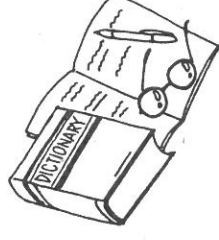
鹿児島市内の高校生対象のビブリオバトルに、3年8組の岩崎未有さんと1年2組の日比嘉正太朗さんがチャレンジしました。岩崎さんは太宰治の『人間失格』(新潮社ほか)、比嘉さんは米澤穂信の『氷菓』(角川書店)を紹介しました。

*「高校生図書館ボランティア養成講座」平成28年7月23日(土) 場所：鹿児島県立図書館

2年6組の読書好きの井上このみさんと図書委員の野元悠さんの二人が参加しました。普段は入ることのできない県立図書館の書庫も案内され、館内丸ごと見学できたそうです。また、実際に本棚の整理などの仕事も行い、図書館員の気分を味わえた半日となりました。

*「平成28年度鹿児島県高校生ビブリオバトル大会」平成28年8月20日(土) 場所：鹿児島県庁

作家の辻村深月さんのトークショーがあるということで、会場は超満員でした。参加者も21校38名と大きなビブリオバトル大会となりました。本校からも1年6組の萩原佐和さんと1年8組の中園夏希さんが参加しました。萩原さんは瀧森古都の『孤独の果てで犬が教えてくれた大切なこと』(SBクリエイティブ)、中園さんは有川浩の『倒れるときは前のめり』(角川書店)を紹介しました。



7月・8月の貸出統計

7月の貸出統計 537冊

学年	1年			2年			3年			合計														
	1	2	3	4	5	6	7	8	1		2	3	4	5	6	7	8							
貸出数	50	15	9	19	20	4	8	71	0	0	44	6	20	37	11	24	16	6	64	23	39	20	2	29
合計	196冊															142冊						199冊		

8月の貸出統計 94冊

学年	1年			2年			3年			合計														
	1	2	3	4	5	6	7	8	1		2	3	4	5	6	7	8							
貸出数	0	0	1	0	4	0	0	6	0	3	0	0	1	5	0	2	2	2	16	11	26	4	6	5
合計	11冊															11冊						72冊		

*もうすぐ読書の秋です!図書館には、お薦めの本がたくさん揃いました。例えば・・・『陸王』池井戸潤 著(集英社)・『神様のケーキを頬ばるまで』彩瀬まる 著(光文社)・『白をつなく』まはら三桃 著(小学館)・『東京會館とわたし』(上・下)辻村深月 著(毎日新聞出版)・『ねこのうち』柳美里 著(河出書房新社)・『亀と観覧車』樋口有介 著(中央公論新社)・『ストレンジャー・イン・パラダイス』小路幸也 著(中央公論新社)・・・ほかにも読みたくなる本がたくさんありますよ!

秋期休業中の利用について

9月28日(水)～10月2日(日) 8時30分～16時30分

*昼食は12:00～13:00 視聴覚室を利用してください。ゴミを残さないようにしましょう。

*秋期休業中、書架室は閉館します。貸出・返却はできません。この時期は掃除がありません。消しかずも各自できちんとゴミ箱に捨ててください。トイレもきれいに使用しましょう。

編集後記

あっという間に前期が過ぎていきました。猛暑の夏もやっと終わり、いよいよ季節は秋へと向かいます。秋といえればやっぱり「読書」です!ぜひ読書の秋をお楽しみください。図書館移転のため、たくさんの本を段ボール箱に入れる作業をしています。文学作品や小論文に必要な本は最後に箱にいれますので、今まで通りに利用してください。

最後に、お忙しい中、快く原稿を書いてくださった黄瀬先生、本当にありがとうございました。「玉木謙太郎」の人世を読んでみたくまりました。読書の楽しみ方を教えて頂いた気持ちになりました。後期も読書を楽しんでください!